

小児科

いまむら のりお
主任部長 今村 徳夫

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医
日本小児救急医学会
日本夜尿症学会

卒年

平成元年



診療科の紹介

小児がんの治療成績は、化学療法（抗がん剤、免疫抑制剤、生物学的製剤）、外科的手術、放射線照射からなる集学的治療の発展に伴って過去40年間に劇的に向上し、現在では約80%の患者さんが治癒するようになりました。その一方で、標準的治療では治癒の得られない再発・難治性の患者さんも一定の割合で存在します。このため標準リスクの患者さんには安全で確実な治療が、難治性の患者さんには治癒の可能性を少しでも上げるために造血細胞移植など専門性の高い治療が求められています。当院小児科では2018年4月に小児がんを専門的に診療する小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げました。

取り扱う主な疾患

①血液腫瘍

急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などに対する化学療法を行っています。

②その他の血液疾患

小児がんの他に、再生不良性貧血や溶血性貧血など赤血球の異常、好中球減少症など白血球の異常、血小板減少症など血小板の異常、凝固因子の異常といった非腫瘍性血液疾患の診療をしています。

③固形腫瘍

脳腫瘍以外の固形腫瘍に対する化学療法も行っています。より専門的な手術や放射線治療が必要な場合は、診療協力施設に紹介・治療連携をしています。

当科の特徴

当科は日本小児血液・がん学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本血液学会、日本造血細胞移植学会の専門医や指導医資格をもつ3名の小児科医師を中心に診療を行っています。

小児がんは致死的疾患であると同時に稀少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの利益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞

移植を行っています。

小児がん患者さんは抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重症感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment（防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます）内で化学療法を行っています。そのうち2床は白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期間にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当センターでは、患者さんと御家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけでなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学士、栄養管理士、医療ソーシャルワーカー、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級教師、その他多くのスタッフが協力してチーム医療を行っています。

診療実績

※小児血液腫瘍・造血細胞移植に関わる実績

2019年度は14例の新規診断患者さんを含む19人の患者さんに化学療法を行いました。そのうち3人の再発・難治性の白血病患者さんに血縁ドナーから末梢血幹細胞移植を行いました。

年度	化学療法、免疫抑制療法をおこなった新規診断症例
2017年度	急性リンパ性白血病1例、急性骨髄性白血病2例
2018年度	急性リンパ性白血病3例、悪性リンパ腫1例、再生不良性貧血1例
2019年度	急性リンパ性白血病8例、急性骨髄性白血病1例、固形腫瘍3例、ランゲルハンス細胞組織球症1例、再生不良性貧血1例

小児科

主任部長 たかの 高野 けんいち 健一

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医
日本小児感染症学会
日本薬理学会
医学博士

卒年

平成13年



クリーンエリアについて

新病院5階B病棟（小児病棟）内にはprotective enviroment（防護環境）と呼ばれるエリア（慣例的にクリーンエリアと呼んでいます）があり、10床の病室があります。ここでは、感染症に対する抵抗力の弱い子供達が治療を受けています。おもに再生不良性貧血や好中球減少症などの血液疾患や免疫不全症、白血病や悪性リンパ腫をはじめとする小児がんの患者さんが対象になります。この病室内にはHEPAフィルターと呼ばれるフィルターを通してきれいな空気が送り込まれ、外部からの空気流を防ぐために部屋の中は陽圧になっており、1日に数回換気が行われることで空気清浄度が維持されています。10床のうち2床はより高い清浄度が保たれており、骨髄移植や臍帯血移植など抵抗力が極端に下がる治療を行います。クリーンエリアに入る時は、スタッフだけではなく患者さんと面会者にも手洗い・消毒とマスク着用をお願いしています。ただし、一昔前の「無菌室」のイメージとは違って、宇宙服のようなガウンやキャップを着用する必要はなく、病室内では普通に患者さんと接していただけます。患者さんは調子が良ければ病室の外へ出て他の患者さんと遊んだりできます。



中庭



ファミリールーム



プレイルーム



無菌室

小児血液腫瘍・造血細胞移植 スタッフ紹介

小児科部長 稲垣 二郎（いながき じろう）

卒年 平成9年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医／日本血液学会 専門医・指導医／日本小児血液・がん学会 専門医・指導医／日本造血細胞移植学会 移植認定医／日本血液学会 評議員／日本小児血液・がん学会 評議員／日本造血細胞移植学会 評議員

小児科部長 興梠 雅彦（こうりき まさひこ）

卒年 平成12年

専門医等

日本小児科学会 専門医・指導医／日本血液学会 専門医／日本がん治療学会 認定医／日本造血細胞移植学会 移植認定医